

医療対人関係論

授業科目名	医療対人関係論
単位数	2単位
英語表記	Theory and Practice on the Interpersonal Relationship in Medicine
授業コード	360403
受講人数	30人
担当教員	平井 啓、佐々木 淳、中村 菜々子
対象	全研究科大学院生、3年次以上の全学部生、社会人（5名まで）
開講時期等	夏期集中1限～5限3日間（8月4日（月）～8月6日（水））
開講場所	8/4 1～5限（第5講義室） 吹田キャンパス：医学部保健学科各講義室 8/5 1限（第7講義室）、2限（第8講義室）、3～5限（視聴覚室） 8/6 1～5限 第6講義室
キーワード	医療コミュニケーション・認知行動療法・問題解決療法・交渉術
授業の目的	1. 医療場面での対人関係とコミュニケーションの問題についての基本的な考え方を理解する 2. 行動変容、認知行動療法の基本的考え方と技法を理解する
講義内容	<p>この授業では、医療における諸問題を題材として、対人関係とコミュニケーションで生じる問題を解決していくための具体的な知識とスキルの学習を目的としています。</p> <p>対人関係の問題を考え、実践を行うためのひとつの体系的な方法として認知行動療法があります。心理療法としてだけでなくコミュニケーションの方法としても用いることができる方法です。この講義では、非専門家のための認知行動療法の基礎と行動変容、問題解決療法、交渉術と呼ばれる方法を取り上げ、さらに具体的な行動変容のための理論と技法を専門とする講師から、基本的な知識と実践のためのスキルを基礎から学んでいきます。</p> <p>この授業は、医療だけではなく対人関係の問題全般に関心のある全研究科の大学院生、3年次以上の全学部生を対象として、グループワークによるディスカッション・ケーススタディ・ロールプレイといった実践的方法を用いて進行します。</p> <p>授業は、集中講義（3日間、一日5コマで15回）でおこないます。</p> <p>[授業内容]</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療場面における問題解決療法の理論と応用（平井 啓）2. 医療対人関係における交渉術（平井 啓）3. 医療場面における対人関係療法の理論と応用（佐々木 淳）4. 医療対人場面に活かす行動変容の考え方（中村菜々子）
教科書	特に指定しませんが、必読文献は受講者に配布します。
参考書	「不安と抑うつに対する問題解決療法」「認知行動療法100のポイント」
成績評価	出席点（50％）とレポート（50％）。講義で学んだことを後半の実習に反映させるために特に出席点と授業に対する貢献度（質問やコメントを積極的にこなう）を重視します。

「患者中心の医療」という言葉が一般的になって久しいですが、実際の医療現場では様々な解決しがたい問題が山積している現状があります。移植医療などの先端医療、終末期医療における問題、さらには医療訴訟、医療紛争などが存在し、かつそれらには医師、看護師、患者、家族など人間関係が複雑に絡み合っています。医療従事者は、さまざまな職種と協働しそれらの問題に対応し、解決していく役割を担っています。

また医療で起こっている問題は、「社会の縮図」とも言えます。このような状況で使われる知識やスキルを学ぶことは広く社会における問題について考え、解決することに応用できるかもしれません。

本講義では、「医療の中で起こるさまざまな対人関係やコミュニケーションの問題にどのように向き合うべきか」「それらの問題を正しく認知し、対処するためにどのように考えていくべきか」ということをテーマとして取り上げます。そして、それらの問題に対処するための体系的な方法として、最近注目されるようになった認知行動療法や、その発展型である問題解決療法、さらに行動変容・交渉術の技法と考え方を紹介し、具体的場面での展開を体験的に学習することを目指します。

また、今回の授業は、医療を専門とする研究科の大学院生だけではなく対人関係の問題全般に関心のある全研究科の大学院生、3年次以上の全学部生を対象とし、さまざまな背景や経験を持つ方々の受講を歓迎します。授業の大部分は、グループワークによる、ケーススタディやディスカッション、ロールプレイによって進行します。授業のなかでは、さまざまな背景をもった人同士でディスカッションし、考えをまとめ、プレゼンテーションを行っていきます。

この授業での経験を通して、より高度に医療場面やさまざまな社会の中で貢献できる臨床家、実践家、研究者、社会人となるための基本的な知識とスキルとこれまで持つことが難しかった新たな発想を得るきっかけになることを狙いとしています。